

錦江町立大根占小学校 第6学年

【授業実践のポイント】

- ① 児童が主体的に考え、議論するために、ねらいを明確にし、道徳的価値に基づいた発問の工夫を行った。(発問マトリクス, 思考ツール, 話し合いカードの活用)
- ② 自己の生き方についての理解を深めるために、振り返りの工夫を行った。(テキストマイニングツールの活用, 道徳コーナーの設置, 振り返りの観点や蓄積)

1 主題名 「ほんとうの友達」[B - (10) 友情, 信頼]

(1) 教材名 「ロレンゾの友達」(日本文教出版「生きる力6」)

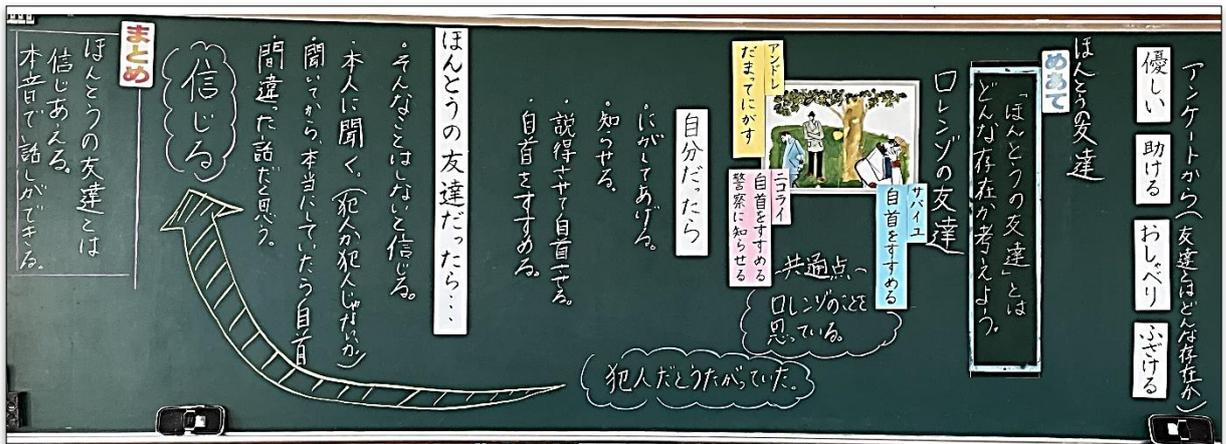
(2) 本時のねらい

よりよい人間関係を構築するためには、信じることが大切であることに気づき、互いに信頼し、友情を深めようとする態度を養う。

2 授業の展開

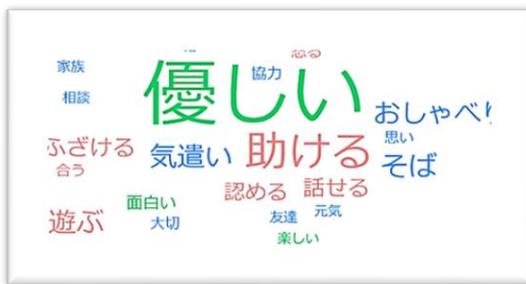
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
気付く	1 アンケートの結果を基に、考えていきたい問題に気付く。 2 本時のめあてを立てる。 「ほんとうの友達」とは、どんな友達か考えよう。	5分	○ ねらいとする道徳的価値の方向付けをするために、友達とはどんな存在か振り返らせる。 【テキストマイニングツールの活用】
さぐる・見つける	3 教材を読んで、考え話し合う。 (1) 自分だったらどうするか。 T:もし自分だったら、どうするだろう。(投影的発問) (2) 3人がロレンゾに伝えなかったのはなぜか。 (3) ほんとうの友達だったらどうするべきか。 T:ほんとうの友達だったら、どうするべきだろう。(分析的発問) 4 「ほんとうの友達」とはどんな友達か考える。 「ほんとうの友達」とは、 ・ 相手を信じる。 ・ お互いに信じ合える。	30分	○ それぞれどの立場で、どのような理由なのかを明確にさせるために、ロイロノートで色分けして立場を示させる。 【ICTを活用して考えの共有】 ○ 考えを広げたり深めたりさせるために、自分の考えを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりさせる。 【話し合いカードの活用】 ○ 主人公の3人には、相手を信じる気持ちが足りないことに気付かせるため、投影的発問や分析的発問をして、自分のこれまでの経験と重ね合わせて考えさせる。 【発問マトリクスの活用】
深める・あたためる	5 今日の学習を通して、感じたことを振り返る。 6 教師の話聞く。	10分	○ ねらいに基づいた振り返りをさせるために、「これまでの自分」「友達の考えを聞いて」「学習したこと」「これからの自分」という4つの観点を示し、振り返らせる。 【振り返りカードの工夫】 【ロイロノートでの振り返りの蓄積】

〈板書〉



友達について (授業前)

友達について (授業後)



〈児童の授業前・授業後の道徳的価値の変容〉
児童の道徳的価値の変容を捉えるため、道徳的価値に関する同じ質問を授業前と授業後に行い、テキストマイニングツール(※)を活用して視覚化している。

※ テキストマイニングツール：自由に記述された文章から、AIが出現頻度の多い言葉や価値のある言葉を拾い上げ、文字の大きさで重要度を表現するもの。

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 発問の工夫(投影的・分析的等)をすることによって、児童が自分事としたり、より深く考えたりすることができた。また、発問を精選することで考える時間や振り返りの時間を確保することができた。
- イ テキストマイニングやロイロノートを活用することで、考えの集約や視覚的な見やすさなど効率化を図ることができた。

(2) 課題

- ア 発問マトリクスを生かすことで、教材や道徳的価値、学年等の発達段階に応じた発問の系統性を明確にする必要があると考える。また、話し合いカードの活用方法を改善することで、考え議論する場を活発にできると考える。
- イ 振り返りカードを蓄積させ、児童が同じ道徳的価値などを多面的・多角的に見返したり、自分の変容を実感したりする場を設ける必要がある。そうすることで、生活の中で道徳的実践意欲の高まりが期待できる。